

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の皆が見えるところに事業所理念を貼りだし、家庭的でやすらぎのある生活など4つの項目を実践している。	法人の理念、4項目から成るホーム理念、サービス提供方針等が玄関ホールに掲げられており、職員は月1回の定例会で確認し合い実践に取り組んでいる。家族には利用契約時に説明し理解をいただいている。運営法人として1~2名の異動や併設の小規模多機能型事業所と兼務している職員もいるが理念は共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。他事業所との交流も、感染症のため中止しているが、再び行事等に出席できればと思っています。	自治会費を納めている。回覧により地域の行事などの情報は得ている。例年であればボランティアによる「子供食堂」、社協主催の「福祉大会」などでの地域の方との交流、中学や高校生の体験学習、職場実習生の受け入れ等も新型コロナの影響により中止となっている。そうした中でも布切りのボランティアが不定期で来訪され、コロナの防止のため玄関先で行われている。利用者も外部の方との交流再開を待たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺の散歩等を通して、認知症の理解を深める機会を継続して続けている。コロナが明ければ、学生等の実習を受け入れたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症の拡大のため、文書で事業所の取り組みを報告している。	例年であれば、グループホームの家族代表、小規模多機能型居宅介護利用者家族代表、区長、民生委員、地域代表住民2名、役場保健福祉課職員、両事業所の関係者などが参加し、ホームと併設のサービス事業所が合同で2ヶ月に1回、定期的に会議が開かれていたが、コロナの影響により現在は集まっただけの開催は中止とし、書面により議題や報告を行い、また、利用者の様子もお知らせし、意見・助言などを頂いている。そうした中でホームの周りの除草について相談したところ、町に対応していただけたという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当課の課長職に運営協議会へ参加して頂き、事業の説明、現状を伝え協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議も書面会議となっているため役場の保健福祉課には日頃から電話などで相談している。介護認定の更新時は家族から依頼があれば代行申請し、訪問調査時にも職員が情報提供を行っている。例年、併設の小規模多機能型居宅介護でオレンジカフェが開かれていたが、新型コロナの影響により中止となっている。他の事業所との職員間の交流「ふれあいサークル」もいまは中止せざるを得なくなっている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前回の外部評価時に車椅子ベルトの使用をしていたが、身体能力の把握や対応の見直しを行い、撤去することができた。その経験を基に身体拘束をしない施設運営に取り組んでいる。	月1回身体拘束についての定例会を開き拘束・虐待ゼロに向けて確認し合い、実践している。外出傾向の方がいるが、廊下でつながっている併設の小規模多機能型居宅介護の利用者だったため自由に行き来している。家族の了承を得つつ安全のため足元センサーを利用している方がいるが、解除に向けて定期的に検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加したり、職員同士で利用者に対する言動について注意し接するようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名が成年後見制度を利用し、関係者と相談し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学を勧めている。その上で各種相談に努めている。契約の際には時間的余裕を持って丁寧に説明できるようにしている。契約内容を改定する場合は、説明書と同意書ももらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、感染症対策として面会制限しているが、オンライン面会やガラス越しの面会を行っている。その際には利用者の近況を伝えながら、お話を伺っている。	自分の要望を伝えることができる利用者は半数ほどで日頃から希望をお聞きしている。表出が難しい方には選んでいただく場面づくりなどにより推し測っている。つぶやきなどは「私の気持ちシート」に書かれており、職員間で共有し支援に活かしている。現在、家族との面会については窓越しで行い、遠方の家族とはオンライン面会も行っている。コロナ拡大前は2ヶ月に1回家族会を開いていたが現在は中止となっているが、暑中見舞いを家族に送り返事もいただいたという。そうした中、2ヶ月に1回併設の小規模多機能型居宅介護と合同で「悠々だより」を発行している。また、月1回、写真入りで各担当職員からコメントを添えた「くにちゃん家通信」も家族の元へ送っている。更に、ホームの夏祭りの様子をDVDにし家族に送り喜ばれたという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き、利用者の情報共有や細かな変化に気づけるよう努めている。上長へは、報告書や係長会議を通して意見を伝えている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で毎月定例会を開き業務全般の意見交換を行っている。兼務の職員がおり、また、利用者も自由に行き来していることから大切な情報交換の場となっている。法人としての目標管理制度があり、職員は年1回目標を立て自己評価を行い、係長や局長との面談が行われ相談や希望を伝えることができる。ストレスチェックも行われている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は評価基準に基づき、職員を評価している。また、全職員に対し、個人面談をする機会を設けており、意見を聞いてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	社協全体の勉強会や関係機関による勉強会を開催し、全員に参加してもらった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ふれあいサークルが企画する交流会等、同業者が交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた自宅を離れ、他人と共同生活を始めることで生じる不安・混乱を受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護(妻は自分が一生面倒をみる)を断念せざるを得なかった家族(高齢の夫)の思いを受け止め、GHでも健やかに過ごされていることを報告し不安を解消していただいた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していたサービス事業所と連携し、同等のサービスの継続の是非について考えた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さりげない労いやお誘いなど気遣いの言葉を有難く受け止め、出来る限り対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限が長引く中、定期的な通信には個別にコメントを書き添え、写真も多用し様子を伝えている。長寿のお祝いでは、家族が主体となって記念となる写真集の制作をしてもらえた。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人(団体)から定期的に届くお便りをファイルに綴り、いつでも閲覧できるようにし、よりどころを大切にしている。	コロナ禍ということもあり100歳を迎えた利用者へのお祝いの賞状が玄関で町長から本人に手渡され、ホームでは頂いた大きな賞状と共に記念撮影をお祝いをしたという。馴染みの往診の先生との記念のツーショット写真も「くにちゃん家通信」でご家族に送られた。町の100歳の欄に写真が載り、知人がお花をもってお祝いに来訪されたという。コロナの影響により外部との往来が難しくなっているが、利用者同士が居室を訪問するなど、和やかに過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で静養することが多い、利用者のもとへ「お見舞いにくたよ」と他の利用者を同伴して入室し視線を合わせたり、語りかけたりする場面を設けた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で暮らしている本人家族の繋がりを大切にし、サービス終了後においてもフォロー・相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、意向を出来る限り把握し、実現するようにしている。センター方式の一部の私の気持ちシートを用い、思いを引き出そうとしている。	「私の気持ちシート」には、不安や悲しみ、嬉しい・楽しい・快い、関りや支援、やりたいこと・願い・要望、そして「つぶやき」なども記録し、希望に沿え得よう支援している。全員が90歳以上の高齢となり季節感を大切に、誕生会や行事などで日々メリハリのある生活が送れるよう実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に今までの生活パターンを含めた話を伺い、親しみ慣れている生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を、職員同士の申し送りや、生活一覧表に落とし込み、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会において課題とケアのあり方を話し合っている。また関係機関(医療)の主催する勉強会を開催し、情報の共有ができた。	月1回の定例会で全員のモニタリングを行っている。長期目標は1年、短期目標は半年を基本とし、計画作成担当者を中心に見直ししている。状態の変化に応じて随時の見直しも行っている。新型コロナ禍ではあるが月1回以上家族の来訪があり、面会時に意見をお聞きしている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りなどで、細かいことであっても情報の共有をし、実行に移している。定例会の前には個別記録や生活一覧表をチェックし、議題に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書道が得意な利用者のため、書道コンクールに応募するなど、柔軟な対応を志している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事等行われなかったが、事業所内で利用者の力を活かし、共に装飾・ゲームを作り、夏祭り等の行事を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	6名のうち5名は訪問診療(月2回)を受け、看護師やDrと目を合わせて会話をし、状態観察を受けている。1名は家族対応で、病院へ受診している。その際には施設内での様子を伝えている。	かかりつけ医については利用契約時に協力医による往診があることなどを説明し希望を聞き、現在、月2回の往診対応が大半で、家族対応の受診が若干名となっている。受診の際には看護師から情報提供をしている。往診時には診療所の医師と看護師が一緒に来訪し24時間オンコール体制となっている。ホームにも4月から非常勤の看護師が勤務しており情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師、訪問看護師に関わらず、些細なことでも情報共有ができる関係を築くことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、地域連携室と連携し、情報共有に努めている。訪問診療に来ている医療機関とは、勉強会を開いてもらう等、良い関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療をして下さっている医療機関による、ターミナルケアに向けた勉強会を開催してもらい、事業所の職員と看護師、主治医と利用者の情報共有をするとともに交流を深めることができた。重度化した場合にはその都度家族とカンファレンスをする方針である。	利用契約時に「入所時リスク説明書」を基に緊急時対応、終末期に向けた取り組みについて説明し同意をいただいている。この数年はホームでの看取りはないが、看護師によるターミナルケアについての勉強会を開き、次のステップに向けての勉強会も開く予定を立てている。今のところ半数の利用者がホームでの看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社協主催の救急法の勉強会に参加し、技術向上に努めている。急変時には、主治医や医療機関と連携している。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している事業所と合同で行う訓練を、消防署の協力を得て行っている。災害時の備えとして、電気を使わずに食事提供する日もある。	年2回、併設の小規模多機能型居宅介護と合同で消防署立会いの下、消火訓練、避難訓練などの防災訓練が行われている。また、通報訓練、緊急連絡網での一斉連絡訓練なども行い確認している。備蓄としてホーム独自に「水」「レトルト食品」「缶詰」「お米」など半月分が用意されており、大雪や停電等にも備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活リズム、ペースを尊重し、できるだけそれに合わせ、過ごしていただくようにしている。本人の会話の世界に合わせる。	玄関に「サービスの提供方針」が掲げられ、方針の中に「プライバシーの確保・人権尊重・個人情報の保護」等が明記されている。接遇研修、虐待防止研修等は法人として開かれ職員は参加している。利用者全員が女性という中、男性職員もいることから介助の際には希望に沿えるよう支援している。居室でほぼ一日中過ごされる方もおり、入り口は暖簾やパーテーションも利用しプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを記録できるよう、センター方式の一部、私の気持ちシートを活用している。本人の誕生日会等、希望に沿った内容を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きるのが辛い方には、10時ごろを目指して起床してもらったりと、ペースに合わせたケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容はできるだけ本人に行ってもらっている。洋服の買い出しでは、本人が好きな色の服を購入した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、おにぎりやおはぎ作り等、本人の力を活かしながら一緒に作っている。月に1回は季節に合わせたイベント食を提供している。	自力で食事が出来る方が半数、一部介助と全介助の方がそれぞれ若干ずつで、一人ひとりに合わせ一口大に刻み、また、ペースト食などで提供している。月1回のイベント食では季節に応じて栗ご飯や炭火焼などのメニューを楽しまれている。おはぎ作りなどにも力量に応じて参加していただいている。誕生日には担当職員が希望をお聞きし、調理担当者がイベント食として「おめで鯛」御膳を用意し、3時のおやつにケーキでお祝している。夏祭りにはバイキングも楽しんだという。プランターで夏野菜が作られ、散歩の帰りなどに収穫し調理されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活一覧表に食事・水分量を記録し、状態の把握に努めている。また、食器を工夫したり、飲み込みやすくなるよう、食事形態や体調に合わせて提供している。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ミキサー食の利用者は口腔ケアティッシュを使うなど、その人に合わせた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の後にはトイレ誘導することで、トイレで排泄するというリズムが来ている。トイレが近いと不穩になる利用者には、その都度誘導できている。状態に合わせたオムツ選びも、職員と相談し、家族にも伝えている。	自立されている方は若干名で、一部介助の方が半数でリハビリパンツとパットの併用である。全介助の方も若干名でオムツ使用という状況である。リハビリパンツ等の購入については家族対応で面会を兼ね来訪していただいている。排泄は生活一覧表に記録されており定時誘導のほか様子を見ながら声掛けしトイレでの排せつを大切に支援している。排便促進について水分や乳製品の摂取、体操などを心掛けており、医師と相談し薬を使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体に合わせて飲み物を変え、水分を多く摂ってもらっている。便秘になる前に、便秘薬で調節するなど、負担にならないように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみて入浴支援ができるよう、日によっては足浴や手浴など気分転換できるよう支援している。	一部介助の方が三分の二、全介助の方が三分の一で、場合により職員二人で介助することもある。浴室は一般浴槽でシャワーチェアも備えている。併設の小規模多機能型居宅介護には特浴槽がありホーム利用者も利用可能となっている。基本的には週2回の入浴としている。脱衣所はファンヒーターを使用し温度管理している。入浴を拒む方がおり声掛けのタイミングや職員を変えたりして入っていただいている。季節の菖蒲湯などを行い楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠れていない日などは、無理をせずに昼間休んでもらったり、寝具の調整をし休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2人以上で服薬のチェックをし、共有することで間違いなく服薬支援が行えている。薬の容量が変更した場合には、その様子を主治医に報告もできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の苗を植えるのを手伝ってもらったり、育て方を教えてくれたり、ゴミ袋に記名してくれたり、個々に得意な役割を担っている。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため外出支援ができない状態だが、季節を感じてもらいたいため、近所の散歩は行っている。コロナが明けた時のため、本人の希望を記録している。	自力歩行と歩行器利用の方がそれぞれ若干名ずつおり、ホーム内の掴まる場所は赤で分かりやすくなっている。三分の二の方が車いすを利用している。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、ベランダで外気浴することもある。コロナの影響により外出も中止となっているが、収束後は地区の行事や希望の場所に出掛けられるよう「つぶやき」などから想いを把握・記録し、再開に備えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々がお金を所持し使用することが難しくなっている。本人の希望を聞いて、代行で購入することは出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をすることが難しいが、ご家族から電話に出てもらうと分かるようで喜んでいる。利用者ごと暑中見舞いを作ってご家族に出し、返事をもらうこともあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	築数十年の老朽化による障害はところどころみられる。室内でも季節を感じられるよう壁面の装飾に力を入れている。色彩の認識が低下している方には、色のテープで区別できるように工夫している。	玄関、廊下、リビングは広く、天井も高く、天窓を開けると夏は涼しい風が入ってくる。風呂の入り口には温泉マークと「ゆ」と書かれ暖簾が下がり、トイレも広々しており入り口には矢印で分かりやすく工夫されている。椅子式の炬燵を利用し家庭的に過ごされている。廊下の壁には模造紙に木が描かれており季節が感じられるよう紙製の色々な花や葉が飾れている。また、「くにちゃんち フォトギャラリー」のコーナーには利用者の写真が掲示され、その写真から日々の様子を窺うことができ、居心地良く過ごされていることが感じ取れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が眺められるような所に読書スペースを設けたり、ソファで休まれたりとその時々で対応出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや自分の名前が書いてある誕生日カードがあるなど、本人らしい居室作りを心がけている。	居室は広々としており、洗面台、クローゼット、ベットが完備されている。衣装ケースなど使い慣れたものが持ち込まれている。壁には家族の写真や感謝状が掲示され、誕生日プレゼント、仲良しの人形なども置かれている。また、誕生会に職員から贈られたメッセージカードも飾れ、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カウンターには大きな文字で日めくりカレンダーを設置している。各所には大きな文字で案内板も設置している。リハビリする上で安全に行えるよう、障害物がないように配慮している。		